

日本物理学会第2006年次大会
平成18年9月24日
千葉大学西千葉キャンパス

領域2(プラズマ物理分野): 運営会議

岸本泰明(領域代表)、小野 靖(領域副代表)

(任期: H17年10月-H18年9月)

<http://div.jps.or.jp/r2/>

前回運営会議(H18年3月28日:愛媛大学・松山大学) プログラムの時間中に開催(インフォーマルミーティング一覧表に「領域2運営会議」として記載)
一般参加可否 → 関係グループ等(△) (→ 歓迎(○)(ABでの議論))

議 事

1. 前運営会議(愛媛・松山大学)からの流れ

1-1 領域委員会(H18年5月24日) :

- ・ 今学会の招待講演(1件)・企画講演(1件)の採択
- ・ 物理学会若手奨励賞についての統一案の提案(領域5より)
- ・ 大会活性化ワーキンググループ(高部主査)

1-2 物理・天文・地球惑星合同プラズマ科学シンポジウム
(H18年5月14-15日)

1-3 アドバイザリーボード(AB)会議(H18年8月14日)

2. 物理学会若手奨励賞について

3. キーワードについて

4. 2007年春季大会

シンポジウム・招待講演・企画講演などの受付

5. 物理学会の活性化について

6. その他

今秋季大会の特色

学会間連携・領域間連携の推進

- 2005年3月年会(東京理科大)
第1回 物理・天文・地球惑星合同シンポジウム(プラズマ宇宙物理:118件)
- 2006年3月年会(愛媛・松山大学)
企画セッション(分野・領域内横断、領域横断の時事的話題)
「高エネルギー密度状態の科学(第1キーワード)」
(39件(18%))(ビーム物理領域合同)
- 2006年5月 第2回 物理・天文・地球惑星合同シンポジウム
- 2006年9月秋季大会(千葉大学)
 - ビーム物理領域シンポジウム「高強度場と粒子の相互作用」(9月23日)
 - 企画講演「高強度場と粒子との相互作用研究の現状と高エネルギー密度科学:
ビーム領域シンポジウム報告と展望」(9月24日) 合同セッション

その後、関連セッションを配置

高エネルギー密度状態の科学・超高強度レーザー・プラズマ宇宙物理等

物理・天文・地球惑星 合同プラズマ科学シンポジウム

事務局：地球電磁気・地球惑星圏学会

<http://www.jpogu.org/meeting/>

ユニオンセッション(Uセッション):U54

各学会に共通する話題を取り上げるセッションです。大会運営委員会からの提案のほか、一般からの公募も行います。すべて招待講演(参加・投稿料は無料)からなり、講演と議論に十分な時間を取ります。

176件の投稿(領域2から約60件)

サブセッション1: **プラズマ加熱, 波動-粒子相互作用**

飽本 一裕 (帝京大)

サブセッション2: **乱流・輸送, 非線形現象**

吉田 善章 (東京大)

サブセッション3: **構造形成, エネルギー解放, 領域間相互作用**

田中 雅慶 (核融合科学研)

サブセッション4: **相対論プラズマ, 粒子加速**

高部 英明 (大阪大)

サブセッション5: **磁場の起源・ダイナモ**

小野 靖 (東京大)

サブセッション6: **プラズマ観測・計測, 新技術**

門 信一郎 (東京大)

サブセッション7: **多体系・強結合・イオン性プラズマ**

畠山 カ三 (東北大)

サブセッション8: **原子・分子過程, 弱電離プラズマ**

加藤 隆子 (核融合科学研)

2006年5月14日(日) - 5月18日(木)

会場：幕張メッセ国際会議場

日本地球惑星科学連合 2006年大会

JPGU MEETING 2006

論文投稿：受付開始 2006年1月10日(火) 正午 12:00

投稿締切 2006年2月8日(水) 正午 12:00

主催 日本地球惑星科学連合

日本宇宙生物科学会 日本宇宙航空研究開発機構 日本地球惑星科学連合 日本岩石地球化学会 日本気象学会 日本地質学会 日本地質学協会 日本古生物学会
資源地質学会 日本地質学会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会
日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会
東京地質学会 日本地質学会 資源地質学会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会 日本地質学協会

協賛 後援

日本学術会議 文部科学省 文部科学省研究費 文部科学省研究費 文部科学省研究費 文部科学省研究費 文部科学省研究費 文部科学省研究費 文部科学省研究費 文部科学省研究費
宇宙航空研究開発機構 海洋研究開発機構 建築研究所 国立研究開発法人 国立研究開発法人 国立研究開発法人 国立研究開発法人 国立研究開発法人 国立研究開発法人
石油天然ガス・金属鉱物資源機構 土木研究所 日本原子力研究開発機構 産業技術研究所 農林水産省 物質・材料研究機構 防災科学技術研究所
理化学研究所 国立教育政策研究所 高エネルギー加速器研究機構 国立天文台 国立極地研究所 統計数理研究所 資源・環境観測解析センター
資源探査用観測システム研究開発機構 地震予知総合研究開発機構 地球科学技術総合推進機構 地球環境産業技術研究機構 電力中央研究所
日本宇宙フォーラム 日本地質センター 深田地質研究所 全国地質調査業協会連合会 東京都地質調査業協会 日本機械学会 日本建設機械化協会
日本航空宇宙学会 日本測量協会 日本分析機器工業会 電子情報通信学会

お問い合わせ

日本地球惑星科学連合 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番地1号 東京大学理学部1号館 719号室
Tel: 03-5841-4201 Fax: 03-5841-1364 E-mail: office@jpogu.org

URL:<http://www.jpogu.org/>



プログラム構成

各セッションの冒頭にチュートリアル講演を配置

- 各分野における研究の動向・方向性などの全体像をレビュー

表1：サブセッション構成 および サブセッションリーダー [敬称は略させていただきます]

サブセッション内容	from 物理学会	from 天文学会	from SGEPSS*
1. プラズマ加熱, 波動-粒子相互作用	飽本(帝京大)	鈴木(京都大)	大村(京都大)
2. 乱流・輸送, 非線形現象	吉田(東京大)	松元(千葉大)	中村(福井県立大)
3. 構造形成, エネルギー解放, 領域間相互作用	田中(核融合科学研)	横山(東京大)	河野(九州大)
4. 相対論プラズマ, 粒子加速	高部(大阪大)	柴田(山形大)	松清(九州大)
5. 磁場の起源・ダイナモ	小野(東京大)	服部(東北大)	桜庭(東京大)
6. プラズマ観測・計測, 新技術	門(東京大)	北本(立教大)	平原(立教大)
7. 多体系・強結合・イオン性プラズマ	畠山(東北大)	小久保(国立天文台)	墻内(立命館大)
8. 原子・分子過程, 弱電離プラズマ	加藤(核融合科学研)	犬塚(京都大)	齊藤(京都大)

ユニオンセッションコンビーナ(順不同, 50音順で記載):

小野靖(東京大), 岸本泰明(京都大), 齋藤昭則(京都大), 桜庭中(東京大), 柴田一成(京都大), 関華奈子(名古屋大), 高部英明(大阪大), 田中雅慶(核融合科学研), 寺澤敏夫(東京大), 中村匡(福井県大), 中村正人(ISAS, JAXA), 星野真弘(東京大), 増田智(名古屋大), 松元亮治(千葉大), 吉田善章(東京大)

領域2アドバイザーボード(H18年8月14日)

議事内容

1. 領域2の運営会議の開催について

- ・ 学会のインフォーマルミーティングの枠組みとして開催
一般参加可否 : 関係グループ等 → 歓迎(領域2会員・運営会議の位置づけ)

2. 物理学会の活性会・分科会の改革について(高部理事からの現況報告)

- ・ 3年を目処に体制変更(8月理事会で承認)
代表 → 運営委員長 世話人 → 運営委員
1-2年: 学会内横断のグループ形成 3-5年: 他学会との連携
6-7年: 国際的な連携
- ・ 本学会でアンケートをとり、賛成が多ければ、北大会での分野横断型チュートリアル講演を行う予定
- ・ 効率的な議論・世話人の積極的な運営の参加を促すため、領域代表・副代表、世話人(8名)、前領域代表で「幹事会」を作り、提案や議論をあらかじめ幹事会で練った後、アドバイザーボードに回る案の提案が了承

領域2アドバイザーボード(H18年8月14日)

3. 招待講演・シンポジウム・企画講演などの提案方法について

- ・ 半年前の運営会議で提案されたものと Web提案のものが並立
→ Web 提案終了後、全提案を公開し、一般意見を受け付けて領域で推薦案を決定
時間的余裕をもって運営会議に提案することは望ましいが、内容中心に採択を議論

4. 物理学会若手奨励賞統一基準について

- ・ 前回の運営会議(論文賞として進める)以降、統一案に向けての領域間で議論・調整が行われ、状況の変化(理事会が統一案を推薦)
- ・ 対象: 研究内容が学会で発表されている論文一般を対象、他の学会、国際会議で発表などを総合的に判断
- ・ 領域2は基本的に賛同、細則等についての議論

領域2アドバイザーボード(H18年8月14日)

5. 電気学会、応用物理学会等との連携について

- ・ 宇宙からプラズマ応用まで、プラズマ分野全体にわたる連携を積極的に進める
- ・ 幹事会で役割分担・担当を決めて、今後、組織化して対応する。

6. ICPP08(福岡開催)について(佐藤委員より)

- ・ 開催経緯・企画内容の説明、今後、ICPP8 プログラム委員会と領域2で連携して企画(メールで検討結果の報告や議論を行う)
- ・ 幹事会で、ICPP08 担当をおいて対応

7. 領域2キーワードについて

- ・ キーワードの整理・変更についての説明(第2・3キーワード)と修正案の議論
- ・ 第1キーワードは企画セッションを弾力運用をしつつ、今後再編成する可能性についても議論・検討を行う。
- ・ 各分野のチュートリアルを企画し、セッションのはじめに配置する案などが提案、できれば2007年春季大会からチュートリアルを実施する案を検討

領域2アドバイザーボード(H18年8月14日)

8. 運営会議の位置づけなどについて

- ・ 領域2メンバーの定義や出席者数など、運営会議成立の条件などを整理する必要があるのではとの議論、透明性確保の観点からも今後検討を行う。
(cf. メンバーの登録など)

9. 代表・副代表・世話人(幹事会)・ABの役割分担・任期などについて

- ・ 今後検討、世話人の事務任期と実質任期のずれの問題の解消

幹事会について

- 領域代表、副代表、世話人(8名)、前領域代表 (11名)
- 様々の提案や企画に関して実質的な議論を集中的に行い、内容を十分に練った後、アドバイザーボード・運営会議に提案
 - 様々な懸案事項に対して組織的に対応
- 担当・役割分担の明確化
 - 広報担当、会計担当、総務(企画・運営)担当、
 - 大会(プログラム)担当、学会賞担当、JPSJ編集担当、
 - 各種学会対応
(電気学会、応用物理、ICPP、AAPPS(アジア太平洋物理学会連合) …)
 - 予算担当(現在はNIFS共同研究を活用)
 - …

物理学会における「若手奨励賞」

理事会からの指針(2006年3月3日)

- (3) 対象: **受賞の対象は各領域で決定**するが、学会講演、学術論文、学位論文など、本賞の趣旨に合致するものであること。**若手の定義も領域の判断**によるが、受賞者は物理学会会員にかぎる。各領域の判断により、賞を領域内の各グループで分割し、それぞれが別の基準を設けても良い。授賞者は学会長とし、会長名で賞状を授与する。

2006年3月28日(愛媛・松山大学)運営会議 (議事録参照)

- ・ 領域2ABでアンケートをもとに議論
- ・ 受賞の対象 1)論文賞、(2)講演賞、(3)論文・講演双方 など、様々な意見が出され、一長一短

→ 「論文賞」として進め、対象論文は物理学会発刊
(JPSJ、Progress、物理学会誌)限る(→ 平田委員長に報告)

「若手奨励賞」における様々な意見

	概要	審査方法	メリット	デメリット	デメリットの改善策
1) 論文賞	学会雑、JPSJ, Progress		<ul style="list-style-type: none"> ・審査が客観的・厳密 (外国人引用件数など)・賞に“重み ・審査員の負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイミングが遅い。受賞年齢が高くなる。 ・受賞対象者が若干不明確 ・対象論文分数が多くない 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 審査過程で外国人による論文引用参考 2) 学会関係の論文投稿を促す役割
2) 講演賞	<ul style="list-style-type: none"> ・講演 ・ポスター 		<ul style="list-style-type: none"> ・発表(大学院生)の質の向上 ・審査対象が明確 ・研究と受賞の間隔が短い・タイムリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・賞の“重み”・客観性が曖昧 ・審査の困難性、審査員の負担 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 同一(重複)審査員が全対象者を審査する制度 2) 他論文を含めて審査
3) 論文賞・講演賞 (両方企画)	<ul style="list-style-type: none"> ・論文 ・講演 		<ul style="list-style-type: none"> ・受賞対象が明瞭 ・論文・講演双方の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・選考内容が異なるものを同列に扱う困難性 ・審査の労力が大 	いずれか一方で開始、後様子を見て検討
4) 若手賞 (論文・講演の区別なし)	講演・論文の総合評価		<ul style="list-style-type: none"> ・研究者の活動自身の表彰 ・学会以外の論文も対象 	受賞対象が不明瞭	論文と講演を両方合わせて審査(労力大か)
領域独自の賞 (論文あるいは講演)			<ul style="list-style-type: none"> ・若手賞を補完 ・表彰数を領域で設定 	・物理学会	

各領域での議論の状況

(1) 物理学会論文のみとする: 領域2

(2) 論文(全般)とする:

素実験、理論核、ビーム領域、領域 1、8、9、11

(3) 講演(のみ)とする: 領域3、4、

(4) 論文全般 または 講演 のいずれか: 領域6

(5) 講演+論文全般(講演を条件) とする: 領域5、7

(6) 講演+研究全般(講演を条件) とする: 領域10

(注: 領域12は、論文全般 あるいは 学会発表予稿)

上記(5)(論文+講演) は学会で発表していることが条件であり、講演そのものを評価するものではない様子

上記(6)(講演+研究全般)は、講演を条件に、講演内容のみでなく、その他の学会発表や印刷公表された全体を含むとのこと。

物理学会における「若手奨励賞」

運営会議後(4月以降)の状況の変化

- 領域5(光物性) 末元代表
 - 物性関係領域の統一基準案策定にむけた提案(領域1, 5, 7, 8, 10)
- 高部理事からのメッセージ
 - 本来、統一基準を理事会が示して、各領域で検討していただくのが筋、各領域で話し合い、統一基準を策定することは本来趣旨に合致、領域2も参加を検討すべきでは。
- ABで議論、参加の方向で検討
- 領域委員会(5月24日)で、理事会としての統一基準策定を再度要請
(理事会の懸案事項で領域委員会で判断はできない)
- 5月31日 佐藤勝彦会長に統一基準策定の要望書
(領域1, 2, 3, 5, 6, 7, 10, 12, 13)
- 6月15日 理事会からの返答

統一基準案(4-23)を理事会に提出するにあたって連名をお願いした結果の集計
(2006年6月6日現在)

	領域代表者	連名諾否	コメント
領域1	伊藤秋男	承諾	
領域2	岸本泰明	賛同	
領域3	喜多英治	賛同	講演に対して出す賞もほしい
領域4	大塚洋一		学会発表に対する賞としたい
領域5	末元徹	提案者	
領域6	奥田雄一	承諾	
領域7	齋藤弥八	承諾	
領域8	倉本義夫		統一することには賛成だが年齢や資格に違い
領域9	大門寛		口頭発表を中心にしたい
領域10	増山博行	承諾	「論文賞」のニュアンスが強すぎる
領域11	中野徹	承諾	選考方法の詳細は領域毎に決めたい。応募の秘密を厳守としたい
領域12	土井正男	承諾	
領域13	加納誠	賛同	

理事会からの返答(決定事項)

- (1) 物性領域で統一案ができれば、大変結構なこと、是非、努力していただきたい。しかし、強制するものではなく、統一案でなくても、理事会に提案されれば、個別に審議。
- (2) 統一案がまとまるなら、10月の理事会までに間に合えば、12月号の会誌に出すことができますので、9月末をめどに案の提出をお願いします。
- (3) 賞に領域名を入れるという提案が別途ありましたが、賞の名称はそのままとし、**賞状に審議した領域名を入れる**こととなった
- (4) 授賞講演についてはほぼ30分程度で、招待講演、企画講演に追加して「授賞講演」のようなジャンルを設けることになりました。

日本物理学会賞若手奨励賞 領域2受賞規定

1. 授賞の対象

1篇または複数編の論文で公表された研究業績。ただし、その研究内容(またはその一部)が、日本物理学会において当該領域で登壇者として口頭またはポスターで発表されていること。

2. 応募資格

応募の時点で日本物理学会会員であること。原則として受賞年度の3月31日現在において37歳以下であること。ただし、出産、育児休暇により研究を中断するなどの事情がある場合は、年齢制限を39歳以下まで緩和することができる。なお、開始から2年間は39歳以下とする。

3. 審査の基準

公表された論文(掲載決定済みを含む)の評価を基本とする。物理学会における発表、他の学会、国際会議での発表内容などを総合的に判断し、優れた研究を行ったこと、研究者としての将来性が評価できることを確認する。また、当該業績について候補者が主要な役割を果たしていることを条件とする。

4. 応募と審査の方法

応募は自薦および推薦による。審査委員会は、候補者について必要な資料の提出を求め、審査する。提出書類は、履歴書、発表論文リスト、対象論文のコピー、学会発表の概要のコピー、推薦書(または自薦書)、その他必要と思われる書類。なお、推薦者は同一の候補者を同じ年度に複数の領域に推薦すること、同一の領域に複数名の候補者を推薦することは出来ない。自薦の場合は同じ年度に複数の領域に応募することはできない。

5. 審査委員

審査委員会は、領域毎で選出され、学会の承認を受けた委員で構成する。分野のバランス等に配慮した委員構成とする。

日本物理学会賞若手奨励賞規定 領域2細則

1. 審査委員会の設置

領域2においては、日本物理学会若手奨励賞候補者の選考を行うため、領域2若手奨励賞審査委員会(以下「審査委員会」)を設置する。

2. 審査委員会の組織

審査委員会は委員長、副委員長各1名と、原則として4名の審査委員(計6名)から構成される。委員長、副委員長は領域代表により指名され、4名の審査委員は委員長および副委員長が領域代表および副代表と協議の上決定する。審査委員の任期は一年とし、次年度の再任は原則としてないものとする。審査委員は受賞決定後公表される。

3. 会議の運営

審査委員会委員長は委員会を招集し、その議長となる。

4. 公募方法

本表彰の公募は、毎年度1回、締め切りの1ヶ月以上前に学会誌や学会ホームページに公募文を掲載する。同時にメーリングリストなどを用いて領域2関係者に自薦・推薦を呼びかける。

5. 応募方法

応募は自薦または推薦による。提出書類は以下の通り。

- (1) 自薦の場合：履歴書、発表論文リスト、対象論文のコピー（3篇以内）、該当する学会発表の講演概要と講演資料のコピー、および所定の用紙に記載した自薦書。
- (2) 推薦の場合：原則として物理学会員である推薦者2名の連名により受賞者候補の推薦を行い、履歴書、発表論文リスト、対象論文のコピー（3篇以内）、該当する学会発表の講演概要と講演資料のコピー、および所定の用紙に記載した推薦書。

以上の書類の正本にコピー6部を添えて、領域代表に郵送する（締切日必着）。尚、自薦書あるいは推薦書の審査希望領域名を「領域2」と明記すること。また、該当する学会の発表は筆頭者かつ登壇者でなければならない。尚、当該年度の領域代表、副代表、審査委員、および共著者は推薦者にはなれない。

6. 審査手順

応募者の中から、領域を問わず過去に若手奨励賞の受賞者でないことを確認した後、応募要件を満たす候補者に対して、審査委員会において提出書類の審査を行う。審査委員会は、自薦または推薦された候補者の対象論文について、論文を中心に、物理学会や他の学会、国際会議などでの発表内容を総合的に審議し、受賞者候補について順位をつける。審査委員会は、候補者選定作業において査読者を委嘱し、参考意見を聴取することができる。尚、候補者と近い関係（共著者、協力者、師弟関係、同じ部門、親戚関係など）にある審査委員は審査に加わることはできない（委員の自己申告制とする）。

審査委員会は、審議経過を踏まえ、受賞者候補者の順位および当該年度に予定された受賞者数などを勘案し、受賞者候補を選考するとともに、推薦理由を付して最終候補者を理事会に推薦する。

7. その他

本細則規定は、審査委員会の議を経た後、領域代表の承認を得て変更することができる。但し、変更内容に関しては運営会議で報告することとする。

キーワードに関する検討・議論

キーワードの変更の依頼

- (1) 領域世話人： 第2 および 第3キーワードが煩雑・プログラム編成時に支障
(キーワードの簡素化が必要)
- (2) レーザー核融合分野：
 - ・ 慣性核融合分野において発表の場が分かれ、少ない聴衆がさらに分散され、適切とは思えないセッションでの発表となる。磁場と慣性に共通する普遍的議論等は、それぞれの分野の一般講演の蓄積の上に、シンポジウムや合同セッションを企画すべき。
 - ・ 第1キーワードに「高エネルギー密度プラズマ」を入れていただきたい。
- (3) 「ビーム物理領域」の発足に伴い、ビームプラズマ応用、高強度レーザー・物質相互作用、高エネルギー密度プラズマ等の講演が領域2から移動

参考：「その他(第2キーワード)」9件のほとんどがレーザー核融合

「新領域(第2キーワード)」7件中6件がレーザー物質相互作用研究

領域2のキーワード

61回年会より第1キーワード簡素化

	第1キーワード(セッション)		第3キーワード(研究対象)
1	プラズマ基礎	21	宇宙プラズマ
2	プラズマ科学(応用を含む)	22	天体プラズマ
3	核融合プラズマ	23	実験室系・基礎実験
4	プラズマ宇宙物理	24	磁場閉じ込め核融合 (トカマク、ヘリカル系、その他の磁場閉じ込め)
5	高エネルギー密度状態の科学(企画セッション) 注) 本企画セッションは、本年会のみ。	25	慣性閉じ込め核融合
	第2キーワード(研究内容)	26	その他の核融合方式
6	波動現象	27	境界層プラズマ (周辺プラズマ、プラズマ-壁相互作用)
7	不安定性	28	非中性プラズマ
8	輸送・閉じ込め特性	29	ダストプラズマ
9	加熱	30	反応性プラズマ
10	非線形現象(カオス、自己組織化等)	31	プラズマ源・イオン源
11	乱流(統計的性質等)	32	超高強度レーザー
12	原子過程・分光・診断法	33	相対論プラズマ
13	プラズマ原子過程と輻射輸送	34	プラズマ応用機器 (プロセッシング、加速、推進、発信等) その他
14	強結合系		
15	プラズマ応用		
16	放電物理		
17	宇宙プラズマ現象 (磁気リコネクション、粒子加速、ダイナモ等)		
18	数値解析・シミュレーション法		
19	プラズマ新領域		
20	その他		

領域2のキーワードと発表状況

<p>2006年9月(千葉大学): 158件</p>	<p>2005年9月(同志社大学): 168件</p>
<p>(1)プラズマ基礎: 63(39.9%) (2)プラズマ科学: 27(17.1%) (3)核融合プラズマ: 60(38.0%) (4)プラズマ宇宙物理: 8(5.1%)</p>	<p>(1)プラズマ基礎: 41(24.4%) (2)プラズマ科学(応用を含む): 28(16.7%) (3)核融合プラズマ: 45(26.8%) (4)プラズマ宇宙物理: 6(3.6%) (5)プラズマ分光・原子過程(領域内横断): 20(11.9%) (6)理論・数値計算: 10(6.0%) (7)診断法・計測器(領域内横断): 8(4.8%) (8)プラズマ新領域(領域内横断): 10(6.0%)</p>
<p>2006年3月(愛媛・松山大学): 213件(+シンポ14)件</p>	<p>2005年3月(東京理科大学): 281件(+シンポ14)件</p>
<p>(1)プラズマ基礎: 49(23.0%) (2)プラズマ科学: 12(5.6%) (3)核融合プラズマ: 101(47.4%) (4)プラズマ宇宙物理: 12(5.6%) (5)高エネルギー密度状態の科学 (企画セッション): 39(18.3%) 注) 本企画セッションは、本年会のみ。</p>	<p>(1)プラズマ基礎: 32(11.4%) (2)プラズマ科学(応用): 15(5.3%) (3)核融合プラズマ: 82(29.2%) (4)プラズマ宇宙物理: 118(42.0%) (5)プラズマ分光・原子過程/診断法・計測法 (領域内横断): 14(5.0%) (6)理論・数値計算(領域内横断): 14+6=20(7.1%) (7)診断法・計測法(領域内横断) (8)プラズマ新領域(領域内横断)</p>

従来のキーワード

変更案

○第1キーワード(セッション)

- (1) プラズマ基礎
- (2) プラズマ科学(応用を含む)
- (3) 核融合プラズマ
- (4) プラズマ宇宙物理

- プラズマ基礎
- プラズマ科学(応用を含む)
- 核融合プラズマ
- プラズマ宇宙物理

○第2キーワード(研究内容)

- 10 (6) 波動現象
- 9 (7) 不安定性
- 27 (8) 輸送・閉じ込め特性
- 3 (9) 加熱
- 5 (10) 非線形現象(カオス, 自己組織化等)
- 4 (11) 乱流(統計的性質等)
- 27 (12) 原子過程・分光・診断法
- 3 (13) プラズマ原子物理と輻射輸送
- 11 (14) 強結合系
- 22 (15) プラズマ応用
- (16) 放電物理
- 6 (17) 宇宙プラズマ現象(磁気リコネクション, 粒子加速, ダイナモ等)
- 9 (18) 数値解析・シミュレーション法
- 7 (19) プラズマ新領域
- 9 (20) その他

- 波動・加熱・不安定性
- 輸送・閉じ込め特性(乱流・統計的性質を含む)
- 非線形現象(自己組織化、カオス、乱流等)
- 原子過程・分光・診断法
- 高エネルギー密度プラズマ物性
- 強結合系
- プラズマ応用
- 放電物理、電離・プラズマ生成等
- 磁気リコネクション・粒子加速・ダイナモ
- 数値解析・シミュレーション法
- プラズマ新領域
- その他

○第3キーワード(研究対象)

- 4 (21) 宇宙プラズマ
- 3 (22) 天体プラズマ
- 31 (23) 実験室系・基礎実験
- 40 (24) 磁場閉じ込め核融合(トカマク, ヘルカル系, その他の磁場閉じ込め核融合)
- 20 (25) 慣性閉じ込め核融合
- (26) その他の核融合方式
- 7 (27) 境界層プラズマ(周辺プラズマ, プラズマ-壁相互作用)
- 2 (28) 非中性プラズマ
- 5 (29) ダストプラズマ
- (30) 反応性プラズマ
- 3 (31) プラズマ源・イオン源
- 18 (32) 超高強度レーザー
- 1 (33) 相対論プラズマ
- 13 (34) プラズマ応用機器(プロセッシング, 加速, 推進, 発振等)
- 1 (35) その他

- 宇宙空間プラズマ・天体プラズマ
- 基礎プラズマ
- 磁場閉じ込め核融合(トーラス系、開放系等、周辺プラズマ、プラズマ壁相互作用)
- 慣性閉じ込め核融合(レーザー核融合、高速点火等)
- 非中性プラズマ、ダストプラズマ、反応性プラズマ
- プラズマ源・イオン源
- 高強度レーザー生成プラズマ(相対論プラズマ、輻射輸送を含む)
- プラズマ応用機器(プロセッシング, 推進, 発振等)
- その他

キーワードに関する検討・議論(2)

今回(運営会議 H18 9月24日)の対応は応急措置

- キーワードに関する様々な議論(H18 8/14 AB会議議事録参照)

- キーワードに関する「検討作業会」を設置して議論
(幹事会・AB + 分野専門家)

→ H18年3月春季大会時の運営委員会で提案を目指す

cf. 分科会の改悪案とリンクして全体的な観点から行うことが必要

物理学会の活性化・その他

シンポジウム・招待講演・企画講演などの受付

○ 物理学会の活性化

- ・ 高部理事からの状況報告
- ・ 他学会との連携について(小野先生)
- ・ H19年3月春季大会での企画提案
テートリアル講演などの検討

例えば

- ー 一括したシンポジウムとして企画(各キーワード毎)
- ー 各セッション毎に企画講演として企画 など(APS-DPP)